

昭和19年12月 東南海地震

昭和19年(1944年)12月7日

昭和19年(1944年)12月7日、終戦前年の空襲下で、マグニチュード7.9の「東南海地震」が発生。戦時下における情報統制により資料は乏しいが、西遠地方が最大の激震地となりました。

太平洋戦争末期の昭和19年12月7日13時46分、東南海地震(M7.9)発生。震度は御前崎6、浜松5。

太平洋戦争末期の昭和19年12月7日13時46分、東南海地震(M7.9)が発生し、東海道筋～紀伊半島にかけての地方に大被害を与え、なかでも西遠地方は最大の激震地で、この付近の震度は御前崎6、浜松5でした。(一説によると袋井市周辺で震度7)

終戦前年の空襲下で、その復旧は大変困難でした。堤防は天竜川中流部(河口から約15km)から下流全川にわたり、沈下して大亀裂が生じました。亀裂の最も深かったのは約4m、堤防の沈下は1mにも達しました。この復旧工事は軍隊の応援も受け、昭和20年1月に着手し、昭和21年2月までかかりました。



堤防に発生した亀裂(浜松市東区中野町)



倒壊した六所神社(浜松市東区中野町)



避難する人々(浜松市東区中野町)



堤防被害の調査(12月20日 浜松市東区)

—— 被災当時の 内務省 天竜川改修事務所 中ノ町出張所長 の手記 —— (現・国土交通省中部地方整備局 浜松河川国道事務所)

丁度昼頃であったと思いますが、ぐらぐらとゆれ始めたので、「地震だ早く外へ出なさい」といってとさに窓を明け、そして四角の木製火鉢を台より下ろして灰をかけ、製図台の下に入り様子を見ていたが、だんだんとひどくなり、掛け時計は落ちる、書籍箱はひっくり返る様になったので窓から飛び出したが、立っておれず、あわててつかんだ木がバラでトゲが刺さった事を覚えています。また、床下の束がゆらゆらとゆれていたと思います。暫くして地震は収まりましたが地面に亀裂が入り水が噴き出して構内一面水浸しになりました。建物がスレート葺平屋だったので大した事もなく幸でした。

国道(現・旧国道)も安間川西側等は大きな亀裂でした。袋井地方は多く

の人家にひどい被害があり、部下も家屋にだいぶ被害を受けた事を後になって聞きました。当然天竜川でも被害を受けましたが、当時事務所は飛行場建設で留守の様なもので職員も少なく、被害状況の調査、復旧作業と大変なものでした。機械器具はほとんどなく、応急処置として軍隊の応援を受け、中ノ町小学校、富岡小学校にそれぞれ1個小隊が宿泊し、特に被害の大きかった中ノ町堤、豊西堤、富岡堤、岩田堤の内、緊急を要する箇所の復旧を軍隊に依頼し、その他は震災復旧費をもって復旧しました。

被害状況の一例を申しますと、中ノ町堤防で国道橋下流の神社付近では石張護岸にも、法面に作ってあるコンクリート作りの量水標にも亀裂が入り、堤防のあちこちらにも

亀裂があり、大きいのは幅30cm前後の亀裂が、更に下流の製材所付近でも斜めに堤防に亀裂が入るとともに、1m位陥没して段差ができました。鉄道橋、国道橋の橋脚にもクラックが入り、鉄道橋の補強は大変なものでした。軍隊の仕事は朝早く、現地では隊長に当日の目標とか仕事の内容等を説明しておけばその通りやってくれるので大変助かりました。亀裂の処置は無くなるまで掘り返してから埋め戻しをしたのです。

なかなか大変な作業でしたが、後で考えると翌昭和20年10月の大洪水に西派川の金折地先が破堤したが、震災被害復旧箇所に被害を受けなかったのは亀裂がなくなるまで切り返しをしたことが良かったと思っています。